

## 神の子と悪魔の子の特徴

### ヨハネ福音書8:37-47

【新改訳 2017】

- 8:37 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかし、あなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが、あなたがたのうちに入っていないからです。
- 8:38 わたしは父のもとで見たことを話しています。あなたがたは、あなたがたの父から聞いたことを行っています。」
- 8:39 彼らはイエスに答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子どもなら、アブラハムのわざを行うはずです。
- 8:40 ところが今あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに語った者であるわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそのようなことをしませんでした。
- 8:41 あなたがたは、あなたがたの父がすることを言っているのです。」すると、彼らは言った。「私たちは淫らな行いによって生まれた者ではありません。私たちにひとり父、神がいます。」
- 8:42 イエスは言われた。「神があなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。わたしは神のもとから来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わされたのです。
- 8:43 あなたがたは、なぜわたしの話が分からないのですか。それは、わたしのことばに聞き従うことができないからです。
- 8:44 あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。
- 8:45 しかし、このわたしは真理を話しているので、あなたがたはわたしを信じません。
- 8:46 あなたがたのうちのだれが、わたしに罪があると責めることができますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。
- 8:47 神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」

### 【祈りながら考えよう】

- (1) 人がもし「アブラハムの子ども」なら、どんなわざをするとイエスは言われましたか。
- (2) 生まれ変わった神の子の特徴は何ですか。
- (3) 人間に対する悪魔のわざの特徴を2つ挙げて下さい。

### 【解説】

#### (1) アブラハムの子どもならアブラハムのわざを行うはず

前段落の結びで、「多くの者がイエスを信じた」(30節)とあるが、ここでは「その信じたユダヤ人たちに」(31節)向かって語りかけておられる。話の展開が示す通り、2章23節以下の場合と同じように、それは不十分な信仰であった(45節)。「しかし、イエスご自身は、彼らにご自分をお任せにならなかった」(2:24)。ユダヤ教の教えや慣わしにとらわれていた彼らは、続けてイエスの教えを受け入れることが出来なかった。

その彼らとのやりとりを通して、「イエスはどういう方であるか」ということが明らかにされる。「真理はあなたがたを自由にします」(32節)と語られると、「罪の奴隷」(34節)ということが問題となった。この罪の束縛からの解放をもたらす方として主ご自身を示された(36節)のである。

しかし、ユダヤ人たちは、「私たちはアブラハムの子孫であって、今までだれの奴隷になったこともありません」(33節)という「民族的な誇り」が、イエスの言葉に耳をふさがせる。ユダヤ人は改めて「私たちの父はアブラハムです」と言った。

彼らは、主の指摘につまずき、主を殺害しようと企てた。それに対して、主は言われた。「あなたがたがアブラハムの子どもなら、アブラハムのわざを行うはずです」

彼らは血統ではアブラハムの子孫ではあるが(37節)、道徳的には「アブラハムの子」ではないことを、主イエス

は指摘された。通常、子どもは親のような風貌をし、歩き方、話し方も似てくるものである。

真理を語るイエスを殺そうとたくらむ彼らは、誰からその邪悪な特質を受け継いだのか。彼らの性癖と傾向をたどれば誰に至るのか。決してアブラハムがあなたがたの父だとは言えないだろう。

ユダヤ人たちが「私たちは淫らな行いによって生まれた者ではありません。私たちにひとり父、神がいます」(41節)と言っているのは、「自分たちはアブラハムほど善なる者ではないにしても、私たちは異教徒や偶像礼拝者ではない。真の神を父として礼拝している者である」と反発している。

#### (2) 生まれ変わった神の子の特徴

イエスは言われた。「神があなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。わたしは神のもとから来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わされたのです。」(42節) 主は、もし「神があなたがたの父である」と言うなら、「神が遣わされた者であるわたしを愛する」はずではないか、と言って、彼らの主張が偽りであることを示された。人が「神を愛する」と主張しながら、主イエス・キリストを憎む、というのはいり得ない。

自分は「生まれ変わった神の子」であるのかどうかを知る簡単な方法がある。それは、その人がキリストを愛しているかどうかを確認すればよい。キリストに対する愛がないところには、神の子であることはありえない。

主が彼らに改めて言われたのは、ご自身が「神のもとから来てここにいる」ということであつた。主が地上に来られる前にすでに存在しておられたことを主張しておられる。主はこの地上に姿を現されるはるか以前に、天において御父と共におられた。そして、御父は主をこの世の救い主としてお遣わしになられた。

#### (3) 主イエスの話が分からない理由

あなたがたは、なぜわたしの話が分からないのですか。それは、わたしのことばに聞き従うことができないからです。(43節)

彼らには、「主の話」が分からなかった。主が「いのちのパン」(6:48)のことを語られても、彼らは文字どおりのパンしか頭に浮かばなかった。主が「生ける水の川」(7:38)のことを語られても、霊的な意味で水に関連させて考えることは思いも寄らなかった。「罪から自由にする」(8:32)のことを語られても、政治的自由のことしか考えられなかった。「彼らの父」(8:38)のことを語られても、先祖アブラハムのことしか考えられなかった。

彼らがこれほど主のことばを誤解したのは、どうしてなのか。それはただ、彼らの心がかたくなであり、「救いのことば」の全体に対して閉ざされていたからである。主のことばに聞き従う意志がないためであつた。

#### (4) 悪魔の2つの特徴

あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。しかし、このわたしは真理を話しているので、あなたがたはわたしを信じません。(44-45節)

そこで主イエスは、悪魔こそがあなたがたの父である、と公然と語られた。聖書学者アウグスティヌスが言うように、「悪魔に倣う」という意味で悪魔の子なのである。悪魔が通った道を自らも通ることによって、彼らははからずも悪魔との関係を露呈した。

「あなたがたは…あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っている」という表現は、彼らの「心の意図」を示している。悪魔は初めから「人殺し」である。悪魔はアダムと全人類に死をもたらした(ロマ5:14)。

悪魔は「人殺し」であるだけでなく、「偽り者」でもある。悪魔は「あなたがたは決して死にません」(創世記3:4)と、あの重大な原初の偽りでエバを欺いた。悪魔は偽り者であり、偽りの父である。

ユダヤ人は次の2つの面で悪魔に倣った。まず、彼らは神の御子を殺害しようと心の中で企てたがゆえに人殺しであつた。第2に、神が自分たちの御父であると言ったがゆえに偽り者であつた。彼らは敬虔な装いはしていたが、その生き方はよこしま(心がねじ曲がっている)であつた。

#### (5) わたしに罪があると責めることができますか

あなたがたのうちのだれが、わたしに罪があると責めることができますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」(46-47節)

主イエスに1つの罪でさえも指摘できる人は、ひとりもいなかった。そのご人格に欠けたところはなかった。あらゆる点において完璧なお方であつた。主は真理のことばだけを語られたのに、彼らは主を信じようとはしなかった。もし心から神を愛しているなら、人は「神のことば」を聞き、それに従うものである。ユダヤ人たちは、主のことばに聞き従わないことによって、はからずも、自分たちが神から出た者でないことを露呈してしまつた。